

「地域と家族の関わり」

弘前市立第一中学校 三年 工藤 有華

日本はここ数年、世界一の長寿大国として世界にその名を広げていました。しかし最近、日本全国で生きていけば百才をこえる高齢者の遺体が次々と発見されるのが相次ぎ、他国から日本という長寿大国に不信感を抱かれ始めています。そこで私は、なぜ遺体が亡くなって数年過ってから発見されるのか、その原因を考えてみました。その結果、二つの原因が思い浮かびました。

まず一つ目の原因は、亡くなった高齢者との家族の関わりです。最近の日本の家族形態は、核家族世帯が全体の約6割をしめています。また、一人だけで生活している一人世帯も増加しています。このことを考えると、一人世帯の中に含まれる高齢者は、家族との関わりが少なくなるため、常日頃電話などで交流しない限り、その高齢者の現状は家族に伝わらないことがわかります。実際、遺体となって発見された高齢者の遺族の中に、何年も会っていない、話していないというものがありません。

二つ目の原因は地域住民との関わりです。最近見たテレビで亡くなった高齢者に対する近隣住民への取材で、

「何年か前から姿を見かけない。」

という返答が何件もありました。このことから、地域住民は高齢者に対しての関心がうすいことがわかります。つまり、高齢者の姿が見かけられなくなっても、「最近見かけないな。」という程度のことはしか考えないということです。

私はこれら二つの原因が重なったことにより、高齢者の遺体は何年も発見されずに今になって見つかったのだと思います。

では、このことを防ぐことはできなかったのでしょうか？もしあるとすればどうすれば良いのでしょうか？私は次にこのことが起きた原因となった二つの原因に沿って、防衛策を考えてみました。

一つ目の原因となった家族との関わり。やはりこの関係は、お互い遠くに住んでいるから起きた事件です。そう考えると、親族に一人暮らしの高齢者がいる家族は、一緒に暮らす、高齢者の住む家の近くに引っ越すなどのことをすることが、一番の防衛策になると思います。特に80と90才を越える高齢者が一人暮らしの場合、今回のような事件になりかねませんので、これら二つのどちらかの対策をして、なるべく高齢者のそばにいてあげる

ことが大切です。

二つ目の原因となった地域住民との関わり。この対策としては、高齢者の近隣住民が、高齢者の家から聞こえる生活音や、高齢者の外出頻度で判断するしかないと思います。近隣住民は高齢者を外で見かけなくなったら、高齢者の家から生活音がするかどうかを判断し、少しでも怪しいと思ったら、高齢者の家を訪ねてみる

か、電話して確かめることが大切です。
このように、今回の高齢者の事件は、高齢者にとって親しい人達が少しでも何か対策をしていれば防ぐことができたのです。特に家族の方は、一人の親せきとして気にかけることをすることが大切です。しかし、この高齢者の事件の中には、家族が故意に高齢者の死を隠していたケースもあったので、こういう時は、地域住民の方々が気付いてあげることが大事です。私の家の近くにも、九十才を越える一人暮らしのおじいちゃんがいるので、おじいちゃんや一人の近隣住民として、今回のような事件にならないように、見守っていきたいと思います。そうすることでも、いち早く気付き、病院に連絡してあげれば、助かる命も必ずあると思います。少子高齢化が進む今だからこそ、高齢者の命を気づかうことが大事なのではないでしょうか？高齢者の家族や親せき、地域住民の方には、このことをよく考えて、今回のような事件を今後、増やさないように、高齢者のことを見守ってあげて下さい。